

刊夕 日四廿月四



定価 一冊五銭 月刊五拾五銭 郵費五拾
 廣告料 五號十二字 第一行 日金五拾銭
 日曜祭日の翌日 休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

自己をみつめる

關屋 五十二

丁度その時、一人の旅僧が通りかゝつたが、この話をきくと

「では拙僧も一巻お経をあけて進ぜよう」

と哀れなトビーのために懇な讀經を始めた。

先刻からの様子を眺めて一番不思議に思つたのは、アルコックであつた。そこで通譯を呼んで

「オイ、あの犬は僕の犬だ。僕はあの犬の主人だ。その當の主人の僕が何もしないのに、あの日本人達は一體

ノート

ピアノやオルガンの掃除は

鍵盤(キイ)は先づベンデッンで拭き更に石鹼の細粉を布につけて磨きます。

この際粉末がキイのすき間に落ちないやうに御注意が肝心です。

何を騒いでゐるのだ」

と訊ねると、通譯が「アルコックさん、日本人

の胸の中には、云ふ氣持があるのです。日本人は犬畜生でも憐れむ心を有つてゐます。貴方がよく道傍で御覽になるあの『馬頭觀世

音」と云ふ石の塔は道傍で倒れて死んだ不幸な馬の靈を慰むるために、日本人がたてた塔なのです」

と叮嚀に日本人の心理を説いて聽かせた。アルコックはいたく感激した。

「恥かしいことだが僕は、今日まで日本人と云ふのは頭の天邊にビストルの様な雷を載つけてゐる野蠻な國

前に、まづ私共自身でモウ一度自己をみつめる必要がないであらうか、一人の少年の一寸した親切が國の外交方針をさへ變へさせる結果になつた事を考へるならば、私共の家庭を幸福にする位のことは一茶飯事である。要は私共一人一人がモウ一度静かに自己をみつめて、各々が自分以外の人々のためにどれだけの親切心を有つてゐるかを考へて見ることである。

【朝】味噌汁：豆腐 小付 やさのり

【晝】海老佃煮 花らつき やう

【晚】つばやき さゝえ さつま揚げ おろし 生姜

民だとはかり思つてゐた。アフリカの土人に近い様な國民だと信じてゐた。しかし今日この有様を見て日本人の胸の中には、文明人だ、開化人だと自慢してゐる我々さへ有たない崇高な心持の潜んでゐる事がハッキリ判つた。今迄の我々の考へ方は間違つてゐた。日本人は心から尊敬して交際すべき國民だ」

そこでアルコックは早速イギリス本國の政府に對して一つの意見書を提出した政府の人々もこの意見書を見るに及んで今更の様に驚

いた。そしてその結果それ迄「日本討つべし」と云ふ考へ方の外交方針が「日本と併に手をとつて」と云ふ親日方針に變つたと云ふのである。

一人の年若い少年の胸に宿つた親切心が一國の外交方針を一變させたのであるこのことを思ふとき、私共お互ひは、お互ひを貴める前に、まづ私共自身でモウ一度自己をみつめる必要がないであらうか、一人の少年の一寸した親切が國の外交方針をさへ變へさせる結果になつた事を考へるならば、私共の家庭を幸福にする位のことは一茶飯事である。要は私共一人一人がモウ一度静かに自己をみつめて、各々が自分以外の人々のためにどれだけの親切心を有つてゐるかを考へて見ることである。

さら／＼ときびの葉ずれのすがしくていと静かなる煙の朝明け

春雨の夜半の雫や染めつらむ昨日に勝る花の色かな

短歌 揚土 隆

喜多流謡曲と仕舞の

お稽古を奨め致します

多喜流 仕舞 白土會

看護婦急派の求めに應じます

三五年型流線美の極致 陸の王者

流線ダツチ

平看護婦會

電話三〇七

母アサ儀永々病氣の處藥石効なく廿二日午前一時卅分死去仕候間此段謹告仕候

追而葬儀は廿五日午後一時自宅出棺性源寺に於て佛式にて相替み申可候

小野園次郎 外親戚一同

發賣開始!!!

サクラ・平のサクラ音頭

素晴しい春の序曲

コロンビアレコード

平よいとこ

磐城甚句

まづ御試聴下さい

御買求めは是非弊店へ

金光堂時計店

平・五 電一九五

喜多流謡曲と仕舞の

お稽古を奨め致します

多喜流 仕舞 白土會

電話一二七番

三五年型流線美の極致
 陸の王者
 流線ダツチ
 花と競ふその艶姿…乗心地
 電話三二二番
 東京鐵道局公認
 不二タクシー

外科 X 光線科
 性病科
 科 科
 入院隨意

安齊外科醫院
 平町田町
 電話四七五番

正確な 特價販賣
 眼鏡は…當店へ
 景品付新發賣開始
 パイロット高級萬年筆
 即時御名入塗刻無料

東北商行
 峰岸淋丹東北專賣所
 平町仲田町
 電話六五三番

花の榮華も

今はきのうの夢

三萬人の歡樂の跡

松ヶ岡の舞臺は躑躅に轉回

松ヶ岡公園の櫻
花は昨日雷の鳴
物入りで吹き荒
んだ風に惱まら
れ僅かに春の名
残りを樹上の幾
片かにとどめて
新緑の葉櫻と化
して終つた、今
晩からは全山の
電燈も表公園を
残すのみで他は
全部撤去される
との事でけふの午前春色の
あせて行く公園を訪れれば
一時は人の山を築いた演藝
場前の

二日から昨廿三日迄の十二
日間主なる観櫻団体は二
百五十八組、此の人員一萬
二千三百五十二人に達し更
らに

家族的な五人十人の
小宴會を加へると誘に三萬
以上の人々が花の下で飲め
や唄への命の洗濯をやつて
のけた譯だ、それも今では
既に昨日の夢……歩みを第
一公園に轉ずれば安藤さん
の銅像邊りには燦々として
初夏らしい光が降り
注ぎ、その傍らの躑躅園は
既に赤、黄、藍等態々な蕾
が數日中に開花するのを約
束する程ハリ切つて居る、
絢爛たる繪巻の展開も遠く
はあるまい、斯ふして松ヶ
岡は初夏への行進を續けて
ゆく……

春逝く公園を訪れ

惡疫の發生

今が警戒期

廣場に 平町役場の團
体サーブスに使用した『莖』
がツラリと日向ボツコをし
て居るのもわびしく、破れ
かけた雪洞や口を開いた提
灯も榮華の跡の物寂しさ、
賣店等は空蟻の取片付や店
仕舞に忙しい、孫を連れた
お婆さんがベンチの上で小
さな

晩春から初夏への季節變り
は傳染病の擡頭期であるが
平署で最近調査した統計に
依ると昭和五年以來昨九年
迄の五年間に管内に發生し
た各種傳染病は腸チブスが
六百七名、デフテリア五百
十四名、赤痢百六十七名、
バラチブス百三名、猩紅熱
三十七名、流行性腦膜炎四
名等、合計千四百三十二名
に達し其の内二百十八名が
死去して居るが管内各町村
別による昨九年度の傳染病
發生數は左の如く神象、鹿
島、玉川三村の無發生を除

て居た爲例年郡内に於いて
は晩秋蠶終了後となり何等
利用効果をなさないもので摘
梢期の繰り上げ方を叫ばれ
た甲斐があつて縣では本年
から桑苗の摘梢期を廿日間
繰上げ九月五日より許可し
幹長も五分の一迄は許す事
に改めたので本年からは晩
秋蠶の桑不足が大いに緩和
されるであらうと

手持米が

薄くなり

共販米高値

石城販賣利用組合平農業者
庫は去る廿一日午後三時よ
り地方米七百九十俵の共同
販賣を行つたが平の百二十
八俵は建値十一圓十七錢で
圓野修一郎氏に落札したの
を初め左記相場で平町大谷
要次郎氏其他に落札、地方
商人の手持米が減少の結果
前回に比して十錢の高値を
見せた

町村	俵數	價格
小川	二〇	一一、〇六
大野	一三六	一一、一二
神谷	一〇	一〇、九二
飯野	四三	一一、二三
勿來	六九	一一、一八
草野	二七	一一、〇二
平窪	二四	一一、〇八
鹿島	六二	一一、〇四

桑摘みの

期間繰上

桑苗の摘梢期は従來縣の規
程に依つて九月二十五日以
降幹長の三分の一と限られ

衛生事務協議

平署管内衛生事務研究會は
本廿四日午前十時から平署
會議室に開會左記事項を協
議した

- 一、傳染病患者早期發見の件
- 一、消毒の迅速徹底の件
- 一、患者發生通報の件
- 一、病原体保有者検査の件
- 一、春季清潔法日割決定の件
- 一、四月廿七日結核豫防デー實施の件

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町一六(電話一七〇番)

東京短期

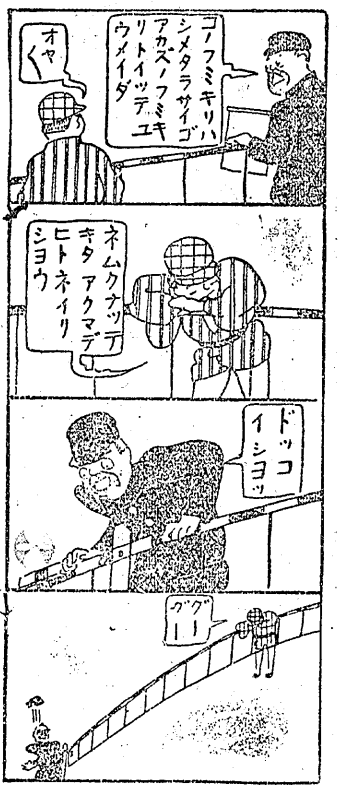
寄附	大引	高値	安値
新東	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇
大新	九四〇	九四〇	九四〇
鐘紡	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
新鐘	二六〇〇	二六〇〇	二六〇〇
日清紡	二六〇〇	二六〇〇	二六〇〇
帝人	七五〇	七五〇	七五〇
東洋	七五〇	七五〇	七五〇
日會	六四〇	六四〇	六四〇
日石	四四〇	四四〇	四四〇
鋼管	二二七〇	二二七〇	二二七〇
東電	四七〇	四七〇	四七〇
日電	四七〇	四七〇	四七〇
日電	五五〇	五五〇	五五〇

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

米期	東	京	大阪
前場一節	二九七	三〇〇	二九一
二節	二九七	三〇〇	二九一
三節	二九七	三〇〇	二九一
四節	二九七	三〇〇	二九一
五節	二九七	三〇〇	二九一
六節	二九七	三〇〇	二九一
七節	二九七	三〇〇	二九一
八節	二九七	三〇〇	二九一
九節	二九七	三〇〇	二九一
十節	二九七	三〇〇	二九一

おとよしののち



印刷の御用は
設備完全の
『警毎日』へ
電話六三〇

見かねた姉妹が 嫁女を訴ふ

亨主の死後に 亂業甚しとして

遺児四名の身代りに

鹿島村大字下矢田字前原五
一園部花代(三)は大正十年
十二月廿四日鹿島村大字下
矢田字前原五戸主嘉茂の
養子園部清と結婚しその間
一男三女を挙げ何不自由
なく過ごしてきたが大正六
年頃から清は肺患に臥床す
る身となつた處花代は夫の
快全を神佛に祈願するとい
ふ口實で屢々外出し種々不
法な行爲を繰り返した

雷の早いは

豊作の前兆

三年前の豊作同様 今年も廿一日

平地方は昨日もやゝ強い雷
鳴があつたが初雷は去る廿
一日で神谷村の本縣農事試
験分場の調る處に依ると初
雷の早い年は一般に豊作で
ありこれと反對に遅い時は
凶作であるとの事此の一
例として昭和三年並びに九
年の初雷は前者が五月廿一
月後者が五月十九日の不況
及び凶作であり昭和八年の
豊作のときは今年同様四月
廿一日に初雷が訪れて居る

水道滞納

役場で公賣

平町水道部は過般差押處分
に附した八、九兩年度の水
道滞納者八十六名、二百圓

餘の家財道々來月六日午
後一時から町會議事堂で公
賣する

壯丁虎眼

平町で検診

平町では市内に居住する本
年度壯丁百七十名の爲めに
來る廿八日午後一時から町
會議事堂でトラホームの檢
診を行ふが其の結果患者
には割引券を與へて治療せ
しめると

遠足の途中

危険な拾ひ物

叢の中にコルト式拳銃

特高の眼光

昨廿三日午前七時半頃平第三小學校五年生が赤井方
面への遠足の途中菅ノ波地内菩提院前を通行の際一
行中の齋藤一郎(三)君が傍の叢の中にキラ／＼光る
物を發見し早速拾つて見ると實弾を抜き取つた小型
コルト式拳銃であつた爲め附添の先生に注意され歸
途平署に届出たが同署特高係は時節柄危険なこの出
所に就いて調査中である

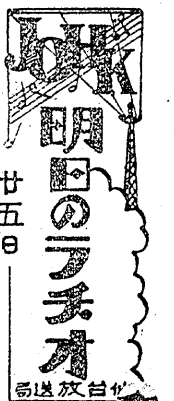
女子青年團が

再び華道講習

正木先生を招ぎ

毎週一回宛開く

平女子青年團に於いて一時
好評を博した華道(長期)講
習會は暫らく休止の處一般
の希望によつて再び開始す
ることとなり來る五月四日
(土)午後一時より平第二小
學校作法室にて開催される
が講師は従前通り正木先生



明日のラジオ
廿五日
天気
今夜も明日も北
西の風天気好
なる

氣象通報 番組表
明日の部
前六、三〇基礎獨語講座
(八) 武内大造
前七、〇〇朝の修養「松
陰士規七則」(終) 海軍
大佐廣瀬豊
前八、〇〇婦人講座
「春から夏への洋裁」(十)
女児ドレス (二) 穴戸
ミヤ
後九、〇〇五木曜コンサー
ト(第四回) 松原操
後二、〇〇小學生の時間
(尋四) 國語「横濱港」
後二、四〇小學生の時間

(尋五)國語「鶏の話」松
川潔外兒童
後五、〇〇講演「麴町
區丸の内東京銀行集會所
より中継」高橋是清
後六、〇〇子供の時間
お話「加藤清正の武勇」
角田政治
後六、二五講演「鷹山公
と細井平洲」別格官弊社
上杉神社宮司大乗寺良一
演「流線型の話」京大教
授理學博士玉城嘉十郎
後八、〇〇寄席中継
神樂坂演藝場中継
後九、〇〇浪花節

通帳窃取犯人は

今迄も屢々悪事

平署の嚴重な取調べに 泥を吐く

昨報貯金通帳を盗んで五十
圓を引出し駄々羅遊びの最
中平署に檢舉された湯本町
八仙入山炭礦合宿所内坑夫
和合惣太郎(三)は其の後取
調の結果其他同宿の佐藤庄
した

病体の新婚夫婦

二千圓を懷中に平地方へ

大阪府下堺市北陽町二丁
目クツ下製業北野善治長
男善一(三)は昨年十一月妻
チエ(三)を迎へ間もなく脚
氣を病んだ揚句強度の神經
衰弱に罹り悲感の餘り本月
十三日現金二千圓を持つて

活版印刷 見習生

二名採用す
年齢十五六歳
希望者は來談あれ

常磐毎日印刷株式
平町長橋町
電話六三〇

市原醫院

平。田町
電話一一四番



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島樞史
(畫) 野口 樞

第一〇七回

間牒往來(12)

曉近い川面の、かすかすかな明りにおぼろげに人影の輪廓をぼうつとうかしてゐる。近づくると黒い影の一つが聲を掛けた。

「木隠れか」

「おう」

木隠れは答へた。

「大志賀の旦那か」

「おう」

大志賀は聞きおぼえのあのど太な聲に應じた。

「首尾よく連出したな」

「木隠れの手並だ」

「立派にいひ切つたな……まアよい。とに角これで俺の義理が済んだわけだ」

大志賀は一步前へすすみ出た。

「天竺だな、おぬし」

「うむ、その安藏だ」

「かたじけないぞ」

「何の……」

「おぬしの、後に控へてをるのは？」

「五人男の一黨さ、木隠れが来て、これでみんな勢揃が出来たわけだ」

「濱町河岸の朝明けに明治白浪五人男の勢揃か、……みんなに引合してもら

僧の金五郎だア、俺のこつた」

四番目がやさしい女のやうな身ぶりですし、み出た。

「大志賀の旦那、あたしですよ。牢屋で御厄介になつた良順です」

「おう、人斬か、青山良順おぬしも無事だつたのか」

大志賀は俺の無事だつた事を告げるやうに叫んだ。

「さて、ドン尻に控へしは……とまアいひてえのが、この俺だ。先刻御承知の俺ア木隠れとあだ名をとる、玄妙不可思議の妙術を體得

見廻した。

「大志賀の旦那、あんたを牢屋から助けてあげりア、もうそれでこつちの仁義は済んだわけだ。足許の明る……といひてえが其實暗い内にさつさと此場を立のくがい」

「安藏はうながした」

「有難、おぬしの親切生涯忘れぬぞ」

「なアに思にさせるつもりで助けたんぢやねえ、そんなこと忘れてもらはう」

「いや、いよ、忘れられぬぞ、その立派なこゝろがけぬすつとして置は惜いなア」

「さういふおまへさんだつて、立派な腕前がありながら浮浪人にし置のは勿體ないよ」

「これも時勢さ」

「俺のぬすつと渡世も時勢か、成程……ハハ……」

「ハ……いやお互に當分は日かげものだのう」



名を名乗るが、俺は天竺浪人の安藏だ」

安藏の右となり控へたいなせな兄いが一步すすみ出た。

「賄方甲州屋新三といふもんだ」

三番目の船頭風情が凛とした聲でいつた。

してをる山田貢といふもんだ」

偽者の獄吏、木がくれはさういつてはじめて帽子をとつた。五人男隨一の文明開化振り天晴れザンギリ頭が揃つた。

「それで五人男がそろつたわけだのう」

大志賀は五人男をじろり

市ウ二焼

干やなぎ

産土

新發賣

産雲丹みそ



最優最良 日本最大 命代店 盛賀 榮 (三一二電) 目丁四平

見習生募集

十四才より十六才迄

高橋時計店

平町二丁目
西村屋薬店
トナリの
トナリ

米國製劑皮膚病良藥

レメドール

子宮あたゝめぐすり
丹波博士創製セキドメ

ハタケ、ヤケド、キリキ
ズ、タムシ
子宮病、根切藥、下腹や
腰の痛みをなほす事妙な
る

たんぽあめ

うまくてセキがヨクトマ
ル

ユビハレ、ヤケド、キリ
キズ、淋病、梅毒、乳ハ
レ、すべて化膿したもの
を切らずに癒る

靈藥ムテキ

平町古銀治町〇一

阿康藥舗

下 電話四四番

産科

院長 木村寅次郎
醫學博士 内木宗八
藥劑師 玄番彌一

木村病院

平町新川町十九
病室隨意
入院完備
電話一六四番

婦人科

花柳病科
入院隨意

井坂醫院

平町田町
電話五五九番

病に勝て!!

肺病、ロクマク、神經衰弱、營養不良、
不眠症其他に……

阿部藥舗

平町田町
増精血
すつぽん蒸焼